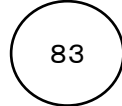


令和 6 年度 学校評価書【学校運営協議会用】(計画段階)

福岡県立 田川 高等学校



<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>地域の発展をけん引し、国際社会に貢献する人材を育成する学校</p> <p>地域と連携した教育活動を通して、地域に誇りを持ち、その発展に積極的に関わる態度を養うとともに、探究的な学びにより、グローバルな視点を身に付け、国際社会に貢献できる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、判断し、自分自身の行動に責任を持つことができる、主体性に富んだ人物の育成 ・規律と責任を重んずる人物の育成 ・人権尊重の理念と人間尊重の精神に満ちた、感性豊かな人物の育成 ・真理を探究することのできる喜びを体得できる人物の育成 ・自己の資質と能力を十分に発揮し、自らの進路を明確な目標を持って選択できる人物の育成 ・志を持って意欲的に学び自律心と思いやりの心を持つ逞しい人物の育成
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域をリードする進学校として、学力の伸長と進路指導に努め、難関大学等の希望進路の実現を図る ・「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」を通し、生徒が主体的に学ぶ自立した学習者となるよう授業を改善する ・一人一台端末等のICT活用を生かし個別最適な学びと協働的な学び実践、探究を深める教育活動を推進する ・「スーパー特進クラス」の特色ある取組を通し、進学意欲の高揚に努め、希望進路の実現を図る ・大学進学を目指すためのカリキュラムを編成する
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を目指し学習したい人 ・最後まであきらめずコツコツ努力のできる人 ・将来、地域の発展をけん引し、国際社会に貢献したいと思っている人

学校運営計画(4月)

学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>令和6年度入試では、定員を満たすことができなかった。第11学区は中学生数の減少、他学区への流出、そして、私学入試の影響によって、今後も厳しい志願状況が続くと思われる。定員割れを解消し、選ばれぬ県立高校であり続けるためには、学区内の中学校との連携をより強固なものとし、地域から信頼されることが重要である。そのためには、ICT活用を含む「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」を積極的に推進し、教育活動のさらなる充実を図り、生徒一人一人に充実した高校生活を保障するとともに、難関大学をはじめとする希望進路の実現に努める。さらに、小学校・中学校・大学及び自治体・地域との連携を通して、生徒の生き生きとした姿を中学校や地域へと発信するなど、効果的な広報活動に努める。</p> <p>また、普通科高校改革、高大接続改革、教員の働き方改革、部活動の在り方の工夫等、県立高校に求められる課題を整理し、具体策を着実に実施して、教職員全員で課題解決に取り組む。</p>	<p>自ら考え、判断し、自分自身の行動に責任を持つことができる、主体性に富んだ人物の育成</p>	<p>職員研修等により教師の指導力向上を目指し、教育活動全体を通して生徒の「生きる力」を育む。</p>	
	<p>規律と責任を重んずる人物の育成</p>	<p>挨拶の励行や、校則の遵守等、家庭と共同して基本的な生活習慣の確立と社会の規範意識の形成に努めるとともにボランティア活動にも積極的に取り組む生徒の育成に努める。</p>	
	<p>人権尊重の理念と人間尊重の精神に満ちた、感性豊かな人物の育成</p>	<p>教育相談機能を充実させるとともに、心の教育の推進に努め、人権尊重の精神の涵養と、豊かな感性を持った人物の育成に努め、安全・安心な学校づくりを目指す。</p>	
	<p>真理を探究することの喜びを体得できる人物の育成</p>	<p>全校あげて「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」に基づく授業改善に努め、質の高い授業を実践する。「総合的な探究の時間」で新たな取組を創出する。</p>	
	<p>自己の資質と能力を十分に発揮し、自らの進路を明確な目標を持って選択できる人物の育成</p>	<p>スーパー特進クラスの充実・発展に努めるとともに、全生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、個に応じた指導を徹底する。</p>	
	<p>志を持って意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つたくましい人物の育成</p>	<p>「水平線上に突起をつくれ」の精神を喚起し、たくましい田川健児を育成するため部活動加入率80%を目指すとともに、スーパー特進クラスが高い志を持ち、学習面において本校の牽引役となるよう指導に努める。</p>	

様式4

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等
教務	「わかる授業」を実施し、生徒の学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。	一人一台端末を含むICTを活用し、個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	・授業アンケート ・「もっと自分らしく学ぶためのアンケート」(「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」生徒アンケート)	
		毎学期1回、生徒に授業アンケートを実施し、授業改善に役立てる。		
		観点別評価の充実により、生徒の学習意欲を高めるとともに、授業改善を図る。		
	ホームページや広報誌を活用した広報活動を積極的に行う。	通年の学校案内ポスター、定期的年2回の「田川高校へ行こう」を作成し、小学校、中学校等へ配布する。	・広報活動用生徒アンケート ・第11学区中学生進路相談事業アンケート	
		ホームページで、日々の教育活動等を掲載し、魅力を発信する。SNSを活用した、より幅広い広報活動を行う準備をする。		
		充実した中学校別の中学生・保護者向けの学校説明会、学校見学会を実施する。		
	PTAと連携し、教育環境の整備や学校行事の充実を目指す。	PTAとの連携を密にするため、年7回の役員会を実施する。	・PTA五役会、役員会	
		年2回以上の交通安全指導を実施する。		
		PTA新聞「嶺南の風」を年3回発刊する。		
生徒指導	規律と責任を重んじ、主体的な判断と行動ができる生徒を育成する。	一人一人が田川高校の代表であるという自覚をもたせ、礼儀とマナーを身に付けさせる。教員自らも規範となる。	・学校生活アンケート ・規範意識育成学習講演会	
		生徒自ら校則を遵守でき、規範意識が高まる工夫や手立てを行う(セルフチェック、各種講演等)。		
	生徒一人一人がそれぞれの資質と能力を発揮し、活躍でき、また互いを認め合う学校づくりをする。	必要に応じ教員が支援しながら、生徒主体で学校行事等に取り組みさせる。	・学校生活アンケート ・「もっと自分らしく学ぶためのアンケート」 ・リーダーシップトレーニング	
		教員は生徒の資質・適性・能力等を見極め、それぞれが活躍できる場・居場所づくりに努める。		
	「いじめ見逃し及び重大事態ゼロ」を目指し、安心・安全な学校づくりに尽力する。	生徒の些細な変化にも気づき、いじめの疑いの段階から情報を共有し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。	・学校生活アンケート ・保護者アンケート	
		組織的な対応を行い、生徒の家庭はもちろん、必要に応じスクールカウンセラー等と連携を図る。		
	教育活動を安全かつ効果的に推進するため、校内美化及び教育環境の整備を図る。	職員に危機管理マニュアルを周知し、危険等に早期に、適切に対応できるようにする。	・美化コンクール ・防災避難訓練	
		掃除手順を確認し、清掃美化や整理整頓に努め、望ましい学習環境づくりを徹底する。		
	感染症対策を徹底し、健康意識の高揚と健康管理の推進に努める。	感染症の流行状況や予防対策情報等に注意を払い迅速的確な策を講じる。	・保健だより ・危険個所確認調査 ・交通安全教室	
校内外における事故防止に努めるため、安全教育(交通含む)、安全管理の徹底を図る。				
進路指導	地域に根ざした進学校として、学力の伸長と徹底した進路指導に努め、生徒や保護者、地域の信頼にこたえる。また、3年間をととしたキャリア教育を実施する。	同窓会、地域、企業等と連携し、地域の信頼にこたえる生徒の育成を目指す。	・進学者数、進学率 ・卒業生追跡調査	
		卒業生の進路状況を集約し、地域や小中学校へ発信する。(広報課と連携)		
		オープンキャンパス、出前講義等への参加を推奨し、広い視野で自分の将来を考える一助とする。		
	進路目標達成のための学習習慣の定着、基礎学力の養成および計画的、組織的な教科指導を徹底する。	模擬試験、課外授業、長期休業時の講習等を計画し、効果的な実施を図る。	・「学びの基礎診断」、外部模擬試験等の結果及びフィードバック	
		教務部との連携により「学びの基礎診断」を実施し、生徒の状況を把握し各教科毎の指導方針策定の一助とする。		
		学校推薦型(推薦)、総合選抜型(AO)など、生徒の特性にあった入試に向けての指導を充実させる。		
	希望進路実現に向けて、個に応じた指導の充実を図る。	個別面談を密に実施し、生徒の志望と現在位置の確認を随時把握する。	・個人面談 ・模試結果分析	
		学びの基礎診断の結果を分析し、生徒個々の状況を客観的に把握し、適切な進路へと導く。		
	進路意識高揚のための進路情報の収集とその提供、変化する入試についての情報収集、および対応に向けた取組みを実施する。	卒業生による進路講演会やシンポジウムなどを企画し進路意識の高揚を図る。	・進路希望調査 ・個人面談	
		新課程入試に対応するための情報を収集する。(大学・学部・学科の動向(受験科目)、教科「情報」の動向)		
		各学年、英語科との連携を通して英語外部検定の積極的受検、英語4技能への対応を促進する。		
	職員研修の充実と職員間の情報交換により、生徒との関係作りを図る。	入試傾向や実態を把握する。また、小論文指導については教員研修を実施し、全職員で対応する。	・授業アンケート ・小論文模試結果分析 ・中学生及び保護者向けアンケート	
外部機関が実施する教員研修セミナー等の案内を行い、教員の指導力向上を図る。				
研究授業について、ICT活用やアクティブラーニングも検討しながら、職員間の交流の機会とし、授業力の向上を目指す。				
放課後の部活動公開等を通して、田川地区の中学校との関係構築を図り、地域に根ざす本校の教育活動を発信する。				
	今後の学習指導の方向性を定期的に協議し、次年度以降につなげる。			

様式4

人権・同和教育	校内及び校外の連携を強化して人権・同和教育を推進する。	教育活動のあらゆる場面で人権・同和教育の視点を確立するため、各分掌・各学年・各教科と日常的に連携を図る。 生徒の諸課題を解決するために特別支援コーディネーター・SCや小中学校・地域との連携を取り、学級担任と協力して家庭訪問を積極的に行う。	・卒業生に対する追跡調査(アンケート/家庭訪問/企業訪問) ・個別の課題を抱えた生徒との面談、家庭訪問	
	生徒の学びを深める人権学習を行い、人権感覚の高い学校づくりに努める。	生徒の科学的認識を高め、差別を許さない姿勢が身に付くような人権学習となるよう、参加体験型学習・意見発表型学習を中心とする指導法・教材の研究を行う。 教員自ら差別の現実にしっかり学び、人権・同和教育に対する主体性を持つことができる研修を企画・運営する。必要に応じて他の分掌と共催する。 各教科で、指導する単元に関連する個別の人権課題の取り扱いを促進し、教科同和教育の取組を推進していく。また、取組の内容を教科内で共有できる環境を整え学ぶことにより情報リテラシーを高めていく。 経済的に厳しい家庭の生徒を支援するため、給付型をはじめとする各種奨学金を周知し、積極的な活用を促す。また、社会福祉協議会などの行政と連携を進める。	・人権学習公開授業意見交流会 ・新入生人権意識調査、卒業生人権意識調査 ・第1学年終了時人権意識調査、第2学年終了時人権意識調査	
	修学支援を行い、生徒の学習機会を保障する。	個別の配慮を要する生徒が安心して過ごせるよう、学校全体で支援するために研修会を実施し共通認識・情報共有を図る。 地域の活動を行う生徒が反差別の行動力を高めることができるように、諸活動を関係職員で支援する。	・奨学金説明会	
第1学年	基本的生活習慣の確立	時間厳守や校則をはじめとする集団生活でのルール遵守やマナーの徹底を図る。 授業・課外活動・家庭学習のサイクルの定着を図る。	・定期家庭訪問 ・三者面談 ・学校生活アンケート	
	希望進路の早期明確化	希望進路実現の土台となる基礎的な知識と実用的な技能の習得に努める。 進路意識の向上につながる進路学習を行い、定期的個人面談をする。		
	お互いを尊重し、支え合う集団づくり	学校やクラスへの帰属意識を高めるための場面を設定する。 あいさつの励行と思いやりの精神を育成する。		
第2学年	希望進路の明確化	進路意識の向上のための進路学習や面談を通じた進路指導を徹底する。 学力向上に向けた様々な学習指導を行う。	・定期家庭訪問 ・三者面談 ・学校生活アンケート	
	基本的生活習慣の確立	時間厳守をし、安易な遅刻欠席をなくす。 積極的な生徒指導に努め、規範意識を高める。		
	他者を大切にする集団づくり	学校やクラスへの帰属意識を高め、人権感覚を養う。 学習活動や部活動に励み、支えあい高め合う集団を育成する。		
第3学年	進路実現に向けた学力の向上	一人一人に合わせた個人課題に主体的に取り組むよう支援する。 最後まで3学年全員で受験に向かう姿勢と雰囲気を作る。	・定期家庭訪問 ・三者面談 ・学校生活アンケート	
	最上級生としての率先垂範	学校行事における最上級生としての立場を理解し、模範となる姿を示す。 受験に向かう姿勢を日々の生活から意識し、落ち着いた雰囲気づくりを行う。		
	社会人・成人としての態度の育成	スケジュール管理を徹底し、自立した生活を目指す。 帰属意識を高め、集団の中での自分の発言や行動を見つめなおす。		